

## 保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 ゆめ和
施設名	ゆめ和ほいくえん
報告者（役職）	井坂 直人（施設長）
住所・連絡先	神奈川県横浜市金沢区六浦東3-12-1
	☎ 045-701-6302
	E-mail Yumewahoikuen_2002@ybb.ne.jp

### ○タイトル（保育計画）

背もたれの無い椅子を導入する事により、幼児（3～5歳児）における正しい椅子の座り方と園児の健康を保持する。

### ○主な助成備品

特注丸椅子…30脚

## 1. 実施した保育計画策定の目的

姉妹園のゆめ和柳町ほいくえんで開園4年目に「子ども達の姿勢の悪さ」が職員会議で提案された。数ヶ月の討議の末、背もたれの無い椅子を試験的に使ってみたところ、背もたれに寄りかからない姿が見られた。その後、低年齢児に対して背もたれの無い椅子を使用し続けた。

はじめのうち、背もたれがあると思えば後ろにひっくり返ってしまう姿が何名も見られた。しかし、使い続ける事により、その後は一度たりともひっくり返る子どもはいなかった。また、背もたれのある椅子より姿勢が良くなる傾向が見られた。

平成25.4～ ゆめ和ほいくえんの開園の際に保護者・子どもと一緒に入園面接を行うと、面接の途中で身体を支えられず猫背になっていく子どもが殆どであった。子ども達の健康状況、特に喘息及び気管支炎の子どもが多い事がわかった。

また、開園してみると、我々が予想していた以上に子ども達の椅子の座り方は、目に余るものであった。家庭での生活は、畳での生活より椅子の生活が圧倒的に多く、家庭で椅子の座り方を正しく伝えられているとは思えない状況であった。

このような現状から・・・

- ① 正しい椅子の座り方や持ち方（移動の際）を伝え続ける。
- ② 猫背等の状況が少なくなり、背筋を伸ばして常に座ることが出来る様になれば、自然と呼吸も深くなる。

③ 椅子に正しく座るといふマナーを身に付け、加えて喘息や気管支炎を持っている子ども達の状況を少しでも防げるのではないかと。

丸椅子を使用する事で、背もたれのある椅子を使用していた時の様に保育士が「ちゃんと座りましょう」と呪文の様に毎日毎日口うるさく指導するのではなく、「自らが背筋を伸ばして座る」事を目指したい。

この仮説に基づき、第一生命財団様の助成金で「背もたれの無い特注の丸椅子30脚」(写真-1)を購入させて頂き、正しい椅子の座り方を伝えていく事で園児の健康を保持する事を目的とした。



(写真-1)

## 2. 具体的な実施内容

一言で「丸椅子」と言っても、どの様な物が良いのか。私が以前に勤めていた保育所では、園児が椅子(箱椅子)を持って保育室から他の場所へ移動する時、2～3歳児は椅子が重くて躓いたり転んだりするケースが多くあった。そのため持ち易く、ある程度軽い椅子である事。また、スタッキングが出来れば保育室で邪魔にならない。座面はどの様な形状になっている物が子ども達のお尻にフィットし、座り易い(ある程度の時間座り続けられる)のか等を考え、プロトタイプをいくつか作成し完成に至った。

実際に使用し始めた時(H25.12.26)は、想定していた通り背もたれが無いために後ろにひっくり返ってしまった子どもが数人いた。その後は誰一人ひっくり返る子どもはいない。2月に入った頃「丸椅子に変えただけでは背筋を伸ばすところまで行かないのではないかと」と言う課題が現場から出された。当園の3～5歳児は、他の保育所から転園して来た子ども達が殆どであり、年中児であっても姿勢を伝えている保育所はほぼ無い様であった。また保護者に聞いてみても、家庭での姿勢や椅子の座り方を伝えている家庭はほとんど無かった。

この状況に対しての保育士の関わりを職員会議で検討した。その結果、保育士は子ども達に以下の様な言葉掛けをする事に至った。

代表的な言葉掛けは…「身体の強い人になりたければ、正しく椅子に座ってみよう。」や「大きく（背が高く）なりたければ、背中をピンとすると良いよ。」「あら、〇〇組には、おじいさんやおばあさんがいるの？」等である。

### 3. その成果と評価

新年度になり、入園して来た子ども達に対して我々が予想もしなかった事が起きた。園の約束事などを、どの園も在園児が伝えていくのであるが、その中で「椅子に座る時は、こうやって座るんだよ。」と在園児自身が椅子に座る姿を手本として、脚の位置まで伝えていた姿が見られた。保育士も毎日毎日椅子の座り方に対して口うるさく伝えているわけでは無いにもかかわらず、子ども達は丸椅子の正しい座り方や椅子の向き（椅子の足が邪魔にならない位置取り）を実際に伝える事が出来ていた事には驚かされた。

以下、

1. 椅子を持って保育室やホールへ移動する時に椅子を落としたり、つまずいたりする子どもはいなくなった。
2. 2～3ヶ月間経験していくと、設定保育時でも自由保育の時でも、かなり姿勢が良くなった姿が見られるようになった。（言葉掛けを含む）
3. 子どもが自由に椅子を使う場面でも、活動により座るポジションを選び（自分が座りやすい位置）正しい姿勢を保つ事が出来る様になった。（写真-2及び3）
4. 開園2年目の後半になると気管支炎や喘息の発作で特に長期休み子どもは、殆ど見られなくなった。

勿論、子ども達に椅子の正しい座り方が出来る様になったからといって、「もう子ども達は出来るから」…と終わりでは無い。ある程度のスパンで何故正しく椅子に座るのかという理由や子ども達が座っている姿を確認していく事は必要である。



写真-2（3歳児…脚部の位置も理解しての使用）



写真-3（4歳児）

### 4. 今後の課題と展望

背もたれのある椅子を使っても、正しい椅子の座り方は伝える事は出来る。ある程度の時間を座って作業する時には、背もたれのある椅子を使って活動する方が現代の子ども達

にとって、すぐに寄掛かれる椅子の方が楽である事と言える。勿論、背もたれに寄掛かりる事が悪いと言う事では無い。しかし背筋を伸ばし正しく座わる事の重要性を我々保育士が子ども達に伝える時、より注意深く子ども達の様子を見たり、言葉掛けを常にしなければならぬ事になる。結果として注意する回数は確実に増える。

その点、丸椅子は座面の形状と高さが子ども達にフィットしていれば、上記の状況になりにくいと言えるのではないだろうか。じっくり活動する時は、座面にしっかり座る。立ったり座ったり移動したりする活動の際には、浅く座るなど、自分にあったポジションを「座る」という行動を通して身体で身につけている姿が見られる。その時の姿勢は、真っ直ぐになっている。

また脚部の位置も足にぶつかるかどうかで自分でその位置を変える事が出来る様になっている。

一方で、椅子の形状が丸で良いのか、と言う疑問が出てきた。園児の身体が机に向かって斜めになるケースが見られる。特に3歳児である。

丸椅子は何処でも座れるが、3歳児にとって机に対して真正面を向いて座ると言う感覚があまり見られない。もしかすると四角い座面の方が良いのかもしれない。しかし丸い座面と四角い座面での「座りかたの違い」は、現段階では分からない。このことは今後の課題にしたいと思う。

以上